

令和4年度
社会福祉法人ことぶき会事業報告
法人全体

【経過報告】

- 令和4年度～ 保育みらい 定員57名から定員40名に変更
- 令和4年度～ グローバル保育園 リノベ委託契約の変更 ことぶき会の直接運営となる
- 令和4年10月 岡山市より岡山市御津保健福祉ステーション（デイサービスかながわ）の指定管理者に指定される（R5.4.1～R9.3.31まで）

【主な事業・入所定員】

- 宇甘川荘 〈従来型〉（特養60名・ショート10名・居宅・デイukai 18名・グループホーム9名）
 〈ユニット型〉（特養50名・ショート19名）
- レファシード直島 （特養66名・ショート4名・居宅・デイ18名）
- おもいやり （特養29名・ショート5名・小規模多機能25名）
- 平井げんき （介護付き有料老人ホーム36名）
- 松風園 （養護50名・ショート・NPA-ステーション・デイ18名）
- 牟佐げんき （特養29名・ショート10名・居宅・小規模多機能29名）
- 桑田げんき （サービス付高齢者向け住宅57名）
- 光生げんき （特養29名・ショート19名・小規模多機能29名）
- 保育みらい 定員40名
- 古新田げんき （特養29名・ショート9名・小規模多機能25名）
- 三鷹げんき （特養132名・ショート12名）
- グローバル保育園 定員31名

令和4年度 宇甘川荘群 事業報告

施設長 佐能恵美子

令和4年度の大きな出来事は、やはりコロナのクラスターの発生でした。職員の油断やショート利用者の持ち込みで、終息まで1か月を要するものもありました。職員はこれに懸命に対処し、重症者を出すことは防げましたが、長い厳しい日々でした。5類になっても菌はそのまま生存しているわけですから、気を緩めることなく引き続き感染対策に努めなければなりません。

収入面では、過疎化の影響で、ショート利用者が減り、少しずつ減収して来ており、これも厳しい現実です。

ICT化でインカムや介護ソフトほのぼのを導入し、業務の効率化に繋がりました。

令和5年、「デイサービスかながわ」の受託による求人にともない宇甘川荘群の介護職員数を充足することが出来、久々の入職式を開催しました。令和4年度の事業計画で、「介護の基本に帰って」ということを掲げましたが、新人・現任育成カリキュラムを作成し、きちんと職員を育て定着してもらうことにより、サービスの質の向上を図っていくようプログラムを動かし始めました。

令和4年度 介護部従来型事業報告

今年度の取り組み

1. 新卒採用

人手不足の深刻化が問題なので、新卒採用に力を入れた。岡山医療福祉専門学校への訪問授業でのアピール、見学会実施、SNSでの広報活動を積極的に行った。結果3年振りにR5年4月採用新卒職員2名が内定され、内定式も行った。



2. 1on1 ミーティング

Yahoo!やGoogleなども行っている1on1ミーティングを行った。主任が月に1回面談を行う事で、職員の仕事に対するエンゲージメントを高める目的。全職員にはできず、9~10月しか出来なかったが、日頃主任と会話することがない職員に対して、とても良いコミュニケーションになった。実際ワークエンゲージメントは高くなり、離職率を下げる手段だと感じた。人手不足が解消された際は、必ず再開したい取り組みの一つ。

以上
令和5年4月30日

介護部新棟主任 岡室 英樹

令和4年度 介護部ユニット型事業報告

サービスの質の向上

専門職としての自覚と意識を持ち、いかなる状況においても根拠に基づく介護の提供を目指して、知識の向上を図り、ご利用者の重度化、多様化、看取りケアの実践等に伴い、専門性の向上と他職種との連携の強化を意識して取り組みました。コロナ禍で外部研修参加が難しく、内部やWEBでの研修をメインに活用し実施した。来年度は外部研修に積極的に参加してもらいたい。

① 組織行動の強化

報告・連絡を密に行い、自分から積極的に情報共有が出来るよう意識した。特にリーダーには、自分のユニットだけでなく他のユニットや他部署との連携・情報共有を意識した動きを心掛けるよううながした。コロナ禍で職員同士のコミュニケーション不足。特に他ユニット・新人・他部署職員とのコミュニケーションが不足していると感じた。

② 人材育成の取り組み

各自が目標を持って職務に取り組むと共に、リーダー・主任が目標を共有し、助言やアドバイスをしながら、モチベーションの維持と自己研鑽に努めました。また自己の振り返りと今後の課題を見つめ直す機会になっています。エルダー制の導入を行い試行中。

令和5年5月27日

介護部ユニット棟主任 田淵 陽祐

令和4年度 相談部事業報告

利用者処遇の向上

新規入所や新規短期の受け入れインテーク等に介護職員又は看護職員も同行し、ご利用者の細かいニーズや課題の把握・情報の共有に努め、スムーズに受け入れが出来るように調整を図った。短期入所に関しては、利用後の状態報告を居宅ケアマネに丁寧に報告することに努めた。

介護ソフトほのぼのNEXT導入により、利用者情報管理や請求業務の効率化を図った。



運動会



夏祭り



夏の飾りつけ

職員の資質向上

災害対策での実動訓練や、施設の感染予防訓練を行っていった。地域の関係機関の会議にも参加し、地域との情報交換をもつことができた。

施設稼働率の維持などによる経営基盤の安定化

入院者や退所者の増加があり、今年度も特養では40名の退所者があった。COVID-19のクラスター発生により利用率の維持が困難であった。短期入所も受け入れ制限を設けた月もあり、稼働率の低下を招いた。入所でのインテークはWEB面談を活用し、空床期間を少なくし施設稼働率の維持・向上に向けて取り組んでいた。

	特養全体	特養ユニット	特養従来	短期全体	短期ユニット	短期従来
稼働率	92.82%	95.52%	90.01%	67.42%	63.91%	62.56%
退所者	40名	16名	24名			
内看取り者	15名	4名	11名			

年間平均介護度 全体 3.96 (内 ユニット棟 3.87 新棟 4.05)

令和5年4月30日

相談部 牧野 祥典 池田 健則

看護部事業報告

「利用者、家族の視点に立った処遇向上」

コロナ対策により高齢者の感染、全身状態が低下した時や持病の悪化のため看取り状態になった利用者・家族の視点、想いを汲みながら出来る限りの看護ケアを提供するように努めました。コロナによる面会制限の中、施設として、どこまで対応ができるのか他職種、施設長含め対応策を検討し少しでも利用者、家族の気持ちに添えるように看取り期の利用者限定ではあったが面会緩和を行い、家族からはとても喜んでもらえました。病院は医療行為や様々な重症者や免疫疾患で面会が出来ないが施設は終の棲家として面会という役割ができた。

「職員の能力開発」

介護士の医療的ケア 1号取得を目指し他職種と連携し研修を行い有資格者の増加に繋がっています。新卒者や中途採用などが資格取得できていない方が多いのは仕方ないかもしれませんが、それ以外の方は1号取得が8割程度、できています。しかし有資格者の退職もあり微増な状態は変わらずです。EPAについては日本語習得や技術次第では医療的ケア2号の取得も出来るようにかかわっています

「予防看護の実践」

感染症に対する予防について年間を通し実践、声掛けを行い職員教育、認識を深めるようにした。今年度も新型コロナウイルス（COVID-19）が主体たが行動自粛、体調管理、病院受診など細かな内容まで指示を出し感染予防対策を徹底しましたが、コロナクラスターが起り、入院者、コロナ感染後に体調不良のまま逝去、など利用者、職員も多くの感染がありBCP対応をせざるおえない状況がありました。隔離期間がユニット棟と従来棟で大きくことなり従来棟は約1か月も居室から出て来られない状況がありました。コロナ発生はありましたが他のインフルエンザやノロウイルスなどは0名でした。

今後も看護部として情報発信、感染対策など徹底して看護にあたります。

令和5年4月15日

看護部主任 川口 浩二

令和4年度 リハビリ部 事業報告

【1. 利用者の身体機能、生活機能の維持・向上】

下肢筋力強化・低下を予防しトイレの使用、移乗・移動能力の維持、寝たきり予防、廃用症候群予防などに努めました。今年度は新棟、ユニット棟ともにADL維持加算Ⅱを算定することが出来るようになりました。また園芸療法として野菜の植え付け、水やり、収穫などの作業を通して役割づくり、生きがいつくりにも取り組みました。





【2. 専門性の向上】

コロナ渦のため外部の研修には参加できていませんが引き続き専門性の向上に努めます。

【3. 他部署との連携】

積極的にカンファレンスやミーティングに参加し情報共有やリハビリ視点での発信をしています。またカンファレンスやミーティング以外でも移乗方歩の指導やアドバイスを求められることが多かったです。

これからも全スタッフあげて利用者のADL維持・向上に努めていきます。

令和5年5月1日

特別養護老人ホーム 宇甘川荘

機能訓練指導員 勝山 嘉文

令和4年度 栄養部事業報告

栄養管理については、利用者様の状態に応じた栄養マネジメント(食事量の把握、食事摂取状態の観察、ケアプランの作成、モニタリング、LIFE入力等)が実施できるように取り組みました。カンファレンスや日々のミールラウンド等で多職種ともこまめに話し合いを行い、食事摂取量が少ない利用者様への食事内容やそれぞれの利用者様に合った補食の提案等を行い、栄養改善に繋がるように努めてまいりました。また看取りになられた利用者様に対して、負担にならないようなゼリー食の提案等も積極的に行いました。

給食管理については、荘内での栄養改善委員会と、委託業者との給食委員会でそれぞれ話し合いを行い、献立についてや行事食・郷土料理の立案・反省を行いました。今年からは広報行事委員会と連携してお誕生日メニューも開始し、好きなメニューを提供させて頂き喜ばれています。

委員会活動へも参加し、専門職としての意見も発信してまいりました。今後も施設の管理栄養士として、栄養マネジメントや行事食の立案等、様々な業務に柔軟に対応できるように取り組んで行きたいと思っております。

令和5年4月30日

栄養部 高見 智恵

〈お花見弁当〉

〈おせち料理〉

〈節分〉



〈創立記念日〉



〈おやつバイキング〉



〈運動会〉



〈郷土料理〉

熊本県



福島県



大阪府



GH ふるさと R4 年度事業報告

《1, 職員配置について》

1名定年退職され、1名技能訓練生（カンボジア）就職となりました。大きく職員が入れ替わる事もなく、安定的なサービスが継続して行えている。逆に、同じサービスで新しい挑戦や新しいサービスが遅れに内容に研修や勉強会を継続的に行っていくようにしている。

《2, 面会できないご家族様への連絡報告》

今までも「ふるさとだより」を毎月発行していたが、より写真やコメントを入れて普段の様子が見られるようにする。また担当者やケアマネが、ご家族への電話連絡で情報提供や状況報告をおこなう。またご家族様の様子なども聞くようにしている。

《3, 地域運営推進会議について》

紙面でのやり取りに変更したことで今まで参加できなかった方からの返信を頂けるようになった。貴重なご意見やご感想は、コメント欄に記載して送付。ご家族からの返信は多いですが、地域の方からの返信はほぼないのでどうやったら返信がいただけるか思案しています。

コロナウイルスが5類に移行したことで今後は行事の再開や地域へ出ていくことも増やしていきたいと思っております。



2023年5月22日作成 GH ふるさと

管理者/作成：林貴子

令和4年度 デイサービスうかい事業報告

稼働率報告

利用者の入院や入所、ショートステイ利用などによる利用中止やキャンセルもあったが、利用日の追加や新規利用者も少しずつ増加している。

令和4年度一日あたりの平均利用者数は「11.4人」と、前年度との比較では+0.3人とほぼ現状維持。今後も広報活動や営業などを継続して行い、新規利用者の獲得や利用キャンセルの減少に努めていきたい。



資質向上

令和4年度は昨年に引き続き、デイサービス改善インセンティブ事業において参加115事業所のうち、3位で表彰を受けた。

利用者サービスの向上

デイサービスを利用者の交流や憩いの場として活用していただき、一人一人の好みに合わせた活動や機能訓練に参加していただいている。

農業や家事活動では、畑で栽培する野菜の種類を考えると一緒に行い、栽培（種まきや水やり、草むしり）収穫、調理までを一連の流れとして取り組んでいる。体の不自由な利用者も色々とアドバイスや様子見に畑まで出られることを楽しみにしていたり、料理の得意な利用者は収穫した野菜の調理を行ったりと、適材適所の活動を行える様に努めている。また自宅ではなかなか出来なくなってきている家事活動（洗濯たたみや洗濯干し、食器拭きなど）も、デイサービスではみんなで作業することにより、自ら自然と参加できているケースも多い。



今後も日常生活リハビリや「うかい」ならではの特色を生かした取り組みを続け、満足度の高いデイサービスを目指していきたい。

令和5年5月24日

生活相談員

三宅 優美

令和4年度 宇甘川荘居宅介護支援事業所事業報告書

各サービス事業所及び多職種との協働のもとサービス利用者は勿論、地域の高齢者とその家族に居宅介護支援事業所を理解して頂くように努め、在宅生活の自立支援を行いました。

又、拠点である特別養護老人ホーム宇甘川荘、地域包括支援センター、各サービス事業所との連携、情報共有を積極的に行い、日々の業務を遂行しました。

- 1、居宅支援利用実績をケアマネ1人あたり月平均30件以上確保するという目標については、平均32.0件（介護予防委託業務含む）と目標達成できました。
- 2、介護支援専門員資質向上に向けて、コロナ渦が続き集合研修開催は少なかったが、リモート研修への参加にて情報収集とその活用を行い、知識、技能等の向上を図るようにしました。尚、介護支援専門員の資格取得希望者が非常に少なく、今後の居宅ケアマネ人材確保が難しいことが懸念されます。
- 3、各利用者に対する対応を確実、且つ正しく行い、各利用者の初回訪問調査にはじまり、アセスメント、サービス利用のアドバイス、カンファレンス、モニタリング（毎月）、記録

の充実・サービスの質の向上を図り、利用者が安心してサービス利用出来るように取り組みました。その結果、居宅に対する苦情は発生しておりません。

4、居宅マニュアルの充実のもと、確実なサービス提供が実施できるようにして、業務遂行を適切に行いました。

業務継続計画（BCP）の作成中です。

令和5年5月20日
宇甘川荘指定居宅介護支援事業所
介護支援専門員 湯浅 顕

令和4年度 宇甘川荘事務部事業報告

従来型特養ではクラスターの影響、光熱費等の高騰、他施設への繰入金があり資金収支差額マイナス3800万。ショートステイは稼働率低下の影響が大きく減収、減益、マイナス208万円。デイサービスは前年より増収だが人件費、職員紹介手数料の増加、車輛購入費が響きプラス426万円。グループホームは安定しておりプラス297万円。居宅は収入が増加したものの収支差額はマイナス84万円。宇甘川荘従来型全体の資金収支差額はマイナス5083万円（ユニット型からの繰入金収入2000万円を除く）となった。

ユニット型特養では収入が増えたものの固定資産取得支出が大きくマイナス680万円。ショートステイも稼働率が低下し収入、資金収支差額共に前年より大きく低下したがプラス670万円。宇甘川荘ユニット型全体の資金収支差額はプラス2000万円（従来型への繰入金支出2000万を除く）となった。

法人本部としては、情報の取りまとめを行い、各拠点の業務担当者へ確実に報告し、情報伝達の不徹底による施設間の不均衡が生じないように努めることができました。

令和5年3月31日
事務部 妹尾 糸島

令和4年度 レファシード直島群 事業報告

令和5年5月1日

特別養護老人ホーム レファシード直島群

施設長 重近 和弘

新型コロナウイルスの影響を直に受けた年となりましたが施設と地域との繋がりを可能な限り保つよう努力しながら、一年間の運営を行って参りました。なかなか厳しい状況は続いておりますが、引き続き職員が一丸となり事業の発展に尽力していきたいと思っております。

尚、令和4年度の各具体的な取り組みとして以下を参照ください。

	目標	実績
施設経営	年間活動収支差額比率 8%以上	12.4%達成(他繰入金除く)
	年間平均稼働率 特養 95%以上	95.9%達成
	ショート 110%以上	117.6%達成(空床含)
	通所介護の立て直し	稼働率 54%→84%
	新介護報酬加算算定	算定可能なものは不足なく算定
	対人件費比率 75%未満	54.9%達成
	リスクマネジメント強化(感染症・災害) 記録方法のデータ化	全体会議・委員会会議にて周知 徐々に移行中
職員	外国人職員の雇用開始	2名採用現在就労継続中
	幹部職員の教育・育成	若手職員リーダー登用
	職員寮・直島の住居	確保できている
	メンタルヘルス・健康状態の把握	健康診断、面接などにて対応
	有給取得率向上	最低限の取得は確保
	介護・看護休暇、休業の推進	積極的に活用
地域貢献 公益事業	共生型サービス	実施なし
	無償事業	定例清掃など地域貢献
	関係機関との困難事例検討会	ケアマネによる定期的な参加
	認知症研修の実施	実施なし

【特養】

特養生活相談員

高畑 奨

《 計 画 》	〔 報 告 〕
<p>①個人の尊厳を尊重し入所者の有する能力に応じ、支援する。また、個別ケア及びユニット単位でのケアを確立する。</p> <p>②個室入所者(さくら・はなみずきフロア・新棟フロア)については、ユニットケアの実施により、一人ひとりに寄り添ったサービスの提供を行う。</p> <p>③地域事業、社会奉仕に積極的に参加し、直島住民の方々にとって開かれた施設を目指す。</p>	<p>①入所者の状態把握の為、会議や申し送りで情報交換を行い、他職種が連携し画一的なケアが実践できた。</p> <p>②※さくら・はなみずき・さつき・ひまわりユニット報告書に準ずる。</p> <p>③地域の方たちとの関わりには地域の会議などに参加を行い、良好な関係を築けている。</p>

【短期】

《 計 画 》	〔 報 告 〕
<p>①個人の有する能力に応じ、自立した生活を営めるようサービス提供を行う。</p> <p>②特養入所者への交流機会の起点として複合的なサービスを提供する。</p> <p>③地域・家族の強い要望に応じ、空床利用を推進し積極的に利用希望者を受け入れる。</p>	<p>①自立支援を目指したケアを職員一同が実践し、現在の能力の維持を目指したサービス提供が行えた。</p> <p>②短期入所のメリットを生かし、特養入所者と上手く区別したサービス提供ができた。※詳細はユニット報告書に準ずる。</p> <p>③空床発生時は、各担当ケアマネ、ご家族と連絡を取り、積極的に空床利用を行っている。年間を通して安定した稼働率で推移している。</p>

《 計 画 》	〔 報 告 〕
入所者ニーズの把握・個別化	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者のニーズ把握のためにご家族との連絡を密にとり信頼関係の構築を行った。 ・事故・苦情についての問題点を明確にし、解決のために動いた ・職員が協力の意識をもち、相談部・介護部の連携を強化することができた。
相談業務	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の日常の様子を適宜連絡し、緊急時は迅速かつ最善な回答を行えた。 ・月に一度、相談部での会議を行い、課題・情報を共有し対応を協議した ・入所申込や地域からの相談に対し丁寧な対応を心掛けた ・入退院時に関係機関と密に連絡を取り、円滑に対応出来た
他事業所、地域関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に関係を構築し、円滑な連携が取れている。公的機関との関係も良好である
実習、見学、ボランティアの受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・全面的に中止となる
研修参加	<ul style="list-style-type: none"> ・相談部に必要である研修を選択し、知識の研鑽に励んだ

デイサービス生活相談員 幸地 陽平

今年度は5月より利用日減少で週3日営業となった為、去年度と単純比較はできない。それを踏まえた上で数字を見ると、稼働率自体は90%以上を維持できており、各曜日の利用人数もほぼ満員となっていることから概ね好調であると言える。一方でこの一年で利用者の平均介護度が下がってきているので、収入面ではやや厳しい状況である。

居宅ケアマネージャー 大森 康文

今年度の居宅介護支援事業所も、前年度と同様にコロナ禍による感染予防対策の継続しながら、訪問や会議の開催等の実施を行ってきた。併設事業所やご担当者の家族の中にもコロナ感染者は発生したが、ご本人の体調には影響しなかったことは幸いであった。地域ネットワークとの関係性も、希薄にならないよう注意し、

密に連携を図るよう努力してきた。

次年度より、様々な制限が緩和していく事が予想され、当事業所も本来の形に徐々に戻していき、直島町の在宅介護の窓口として役割を果たしていくよう邁進していきたい。

管理栄養士 蓮井 祥見

- ① 入所者一人一人に適した栄養ケアを実施する
 - ・入所者様個人の身体機能、摂食嚥下機能、嗜好に配慮した食事を委託会社と協力して提供しました。咀嚼嚥下機能が低下した方にはおやつはムース・ゼリーを提供し食べやすい形態のものを提供し経口摂取の継続と誤嚥を防止することが出来ています。また、食事摂取量の低下、体重減少がある方には濃厚流動食を補給して経口摂取の継続と低栄養の予防に努めました。
- ② ターミナルケアの食事の充実
 - ・ターミナルケアの方には経口摂取が可能な場合のみ、嚥下に配慮したゼリーや濃厚流動食を提供し最後まで口から食べて美味しいという気持ちを感じていただけるよう多職種で取り組むことが出来ました。
- ③ 行事食の充実
 - ・今年度は委託会社が旬の果物を毎月提供するという取り組みを始め、シャインマスカットやいちご、紀の川柿という珍しい種類の果物も提供することができとても好評でした。また、初めてソフトクリームの実演イベントを開催し普段食べることができないソフトクリームを提供することができ入所者様、利用者様にとっても喜んでいただくことが出来ました。
- ④ 衛生管理の徹底と安全、正確な食事の配膳・配送
 - ・食事は温冷各々保温管理を徹底して行い食中毒予防に努めました。
 - ・食事内容の変更については迅速に厨房と連絡することを徹底していたが、配膳ミスは数件ありました。
- ⑤ 厨房備品、食器の補充
 - ・スチームコンベクションオープンと小鉢、マグカップの食器を新規購入しました。

介護主任 山本 将人

【目標・方針】

- ・入居者本人や家族とのコミュニケーションを積極的に行うことで、ニーズの把握をして、一人一人に合った「暮らし」のサポートを行う。
- ・リスクマネジメントを行い、事故予防・再発防止・感染予防に努める。
- ・多職種と連携を密に図り、情報の共有を行い、統一したケアを提供する。
- ・人材育成をもとに、新人職員だけでなく職員全体で定期的に介護技術の見直しができる機会を作る。
- ・職員一人一人が、介護施設で働いている職員という自覚を持ち、コロナウイルス感染防止に徹する。また、面会が禁止の間は、入居者の心のケアにも努める。

【報告】

コロナ感染予防の為、面会は禁止となっているので、リモート面会や電話で近況を伝える等の対応を行った。また、全ユニットで利用者、職員のコロナ感染が拡がり、対応に追われたが、勤務調整や他部署の協力もあり、何とか乗り切ることが出来た。面会が禁止となり、職員の介護の質の低下が懸念されるので、令和5年度は面会の再開が予定されているので、ケアに対する意識改革が必要と思われる。

看護部主任 宮原 有見

年明けよりコロナクラスターが発生し、保健所の指導のもと感染対策をおこなったが、拡大を止められなかった。

利用者、職員ともに感染者が増え、感染対策期間が長期となってしまったが、少ない人数で協力しあい乗り切る事ができた。感染対策の指導はしているが個人のやり方で行われることもあり、統一徹底する事の難しさを痛感した。

ふれあい診療所との連携は池上医局長の協力もあり比較的スムーズに行えたのではないかとと思われる。

回診は週1回となったが特に問題なく行えた。計画はコロナ禍にてすすめられなかったところがある。

あじさいユニットリーダー 小林 貴晃

令和4年度は、新型コロナウイルスのクラスターがユニット内で発生(令和5年1月14日~1月31日まで)し、入居者16名中13名が感染した。ユニット内でのコロナ収束に向けて他職種の職員との連携で乗り切る事ができた。今一度職員一人一人が感染症対策を徹底し、発生した時の対処ができるようにこれからも多職種の職員と連携しながら取り組む必要があると思われる。

さくらユニットリーダー 岩崎 竜也

個々の入居者様の施設生活の充実に努める。スタッフ不足に伴い個々の入居者様のケアを出来ない状況。

ADLの低下を防ぎ、今の状態を維持に努める。ADLの低下及び認知症の進行を遅らせる事は出来ないと思感する。

生活環境を整え転倒リスクの軽減を図る。人感センサーを購入。設置する事でリスクの軽減は出来ている。

他の専門職と連携しチームケアを実施する。一部の自分本位な職員以外とは連携できている。

BPSDに対応出来る教育と指導の実践。スタッフ不足に伴い出来ない状況。

人手不足に伴い研修及び勉強会などが出来ない状況にて実践できない。

さつきユニットリーダー 佐藤 佳史

コロナ禍において感染対策に取り組んでいたが、ひまわりユニット利用者、各新棟スタッフから感染者が出た。それからは感染が広がらないよう一丸となり、感染の広がりは最小限に留めることができた。

入居者の状態の変化に合わせ、決められたケアを行うことは出来ていたと思うが、新たな試みやケアの変更をすることに積極的だったとはいえ、後手に回っていた。

特定のスタッフ間に不和が生じ、スムーズな意見交換や情報交換が行われなかった。また前述の通り職員が減少したことで各職員に余裕がなく、入居者への余暇の提供やイベント行事を行うことも中々出来なかった。

【総括】

達成度は低いと言わざるを得ない。しかし、「仕方がない」と諦めるのではなく、今いる職員で何が出来るかを考え、積極的に実践していきたい。

菜の花ユニットリーダー 多田羅 智弘

多職種と連携し、食事介助方法や使用する道具などその都度、話し合いを行い対応を統一することによりケアの質の向上、事故の減少に努めることができたと思う。日勤帯職員より夜間の利用者の情報共有が足りて

いないと意見があり今後の課題として菜の花ユニット職員でこれからの記録の書き方等を改善するようにする。コロナに関しては収束してきている為、面会の再開を願いながら帰宅願望の出やすい利用者の対応には今まで以上に注意し、穏やかに過ごしてもらるように引き続き対応していく。

はなみずきユニットリーダー 坂本 康

安心でき安全で快適に生活出来る環境作りに努めてきた。転倒等の事故はあったがその都度対策する事ができた。はなみずきユニットはショートステイのご利用者の入れ替わりがあるので各々の身体状況の把握、その方に適した環境整備を行う大切さを再認識した。今後もより一層注意し来年度は事故をゼロにするよう安全な環境整備に配慮しく。

レクリエーションについては、コロナ禍の為全体でのレクリエーションは出来なかったが、ユニットで小規模だが感染に配慮し季節に合わせたレクリエーションを行う事ができた。

ひまわりユニットリーダー 東 夏生

<年間目標>

職員間での情報共有、意思疎通、思いやり等が圧倒的に足りていなかったように思う。

また、ユニット間でのコロナウイルス感染者も出てしまった。

<方針>

認知症状が激しい入居者に手を取られ、他の入居者に十分なケアを行うことができなかった。

～だろ介護を行うことが多かった様に思える。(一人でも出来るだろ等)

全てにおいて見通しの甘さが目立った。

<介護計画>

上記にも記した通り、職員間の人間関係、人手不足による心、体力的な余裕のなさで、十分なケアを行うことが出来なかった。雰囲気作りから見直していかなければならないと思う。

苦情処理班班長 山本 将人

【活動報告】

・利用者、家族等から苦情が発生した場合、迅速な対応にて各部署の責任者との臨時会議の開催を行う。

その後、申立人に検討報告行っている。

また、職員に苦情内容・改善結果を周知し情報共有を行った。

排泄班班長 小林 貴晃

コロナ対策により講習、研修を行えないので、看護師、排泄班員が中心に早期発見、対応を心掛ける

<活動> オムツの注文、補充は、各ユニットで行い、毎月の集計を班長が行い、各ユニットの使用状況を把握する。

また、適切なパッド等の使用を検討して、コスト削減に努める

<その他> 入居者一人一人の排泄パターンを把握し、剥離、尿路感染、発赤など排泄面でのトラブルを防。

オムツ交換時、洗浄、軟膏、ラップ保護の指示あれば行う。排泄時のポジショニングを検討する。

<報告> パッド交換時に皮膚の状態を観察し、何かあれば看護師に見てもらい、症状にあった対応が出来ている。しかし、パッド、テープ止めパンツの当て方が不十分な事がある為、勉強会を実施し、適切な当て方を学び、不必要なパッド類の削減に取り組みたい。

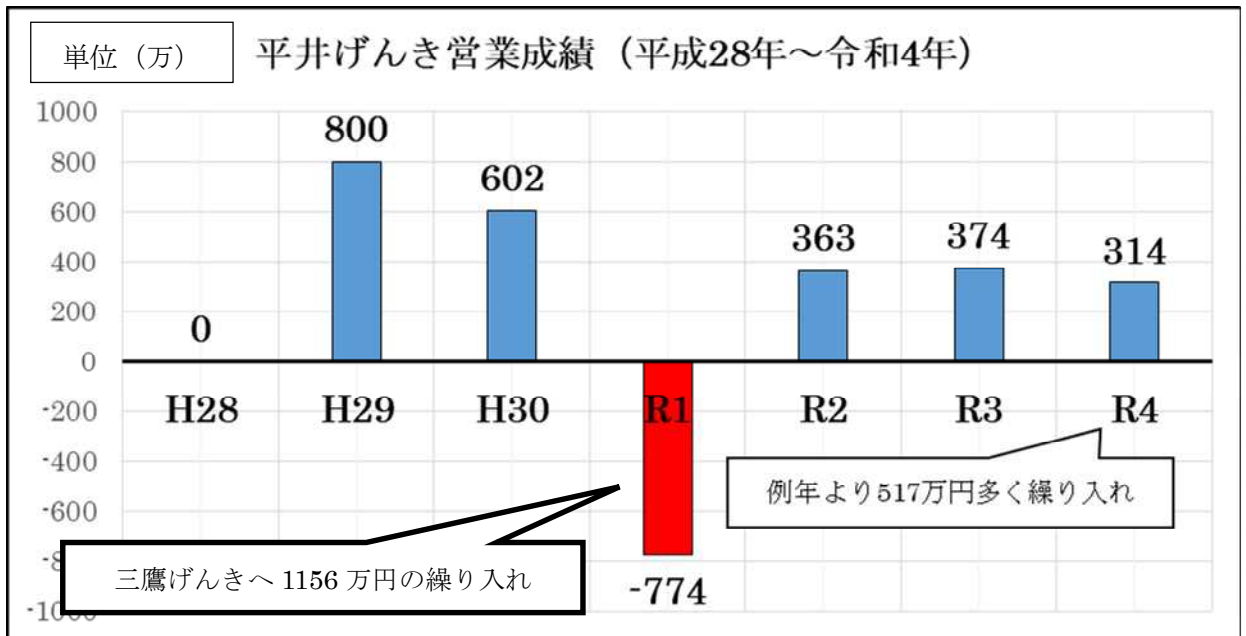
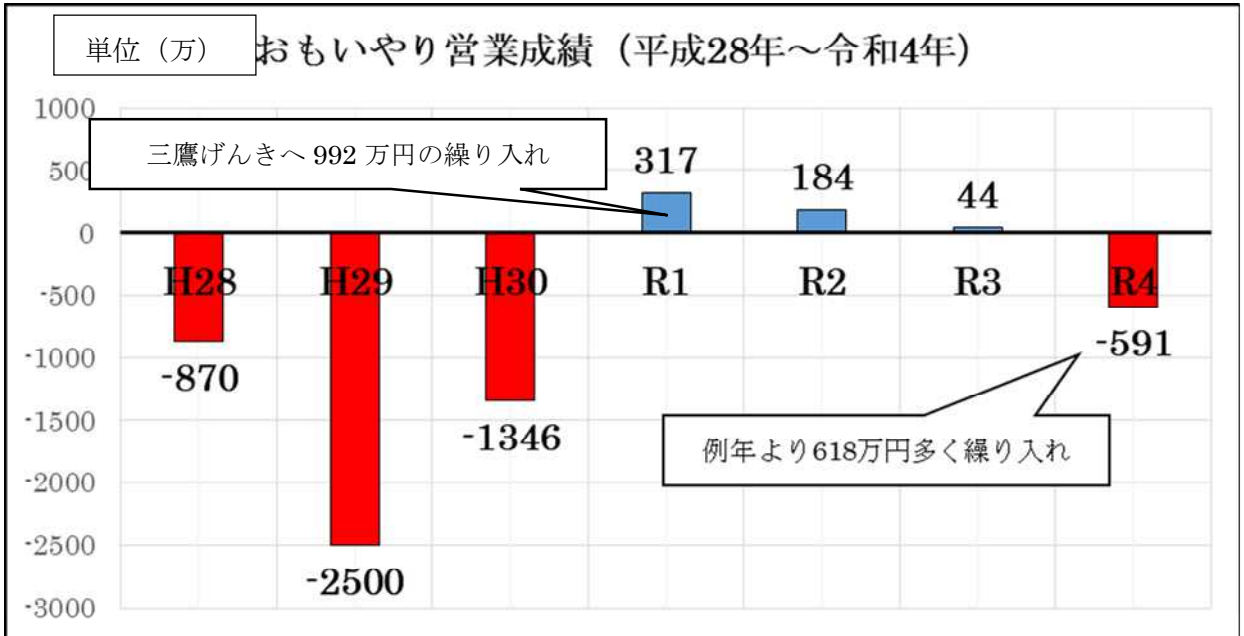
特別養護老人ホームおもいやり
介護付き有料老人ホーム平井げんき
令和4年度 事業報告書

令和5年4月30日

特別養護老人ホームおもいやり

介護付き有料老人ホーム平井げんき

施設長 藤本 弘樹



おもいやりは赤字決算となったが、例年よりも多く繰り入れを行っており、それを加味すると例年並みといったところ。前年度と比較すると特養・ショートで大きく収入を伸ばしたが、小規模多機能の稼働が落ちているので、その収入減と相殺されている状況。小規模の赤字をいかに減らして安定させていけるのかがネックとなる。

平井げんきは昨年度より1827万円増収しているが、繰り入れ金の増額や修繕費用の増大等により、増収分ほどの黒字には至っていない。

特養と介護付き有料が隣接していることを逆にメリットにして、両施設の稼働を安定させるとともに、小規模多機能の赤字を減らせるよう努めたい。

令和5年度も職員が自身の仕事にやりがいを持ち、安心して勤められるような職場環境を整え、それが結果的に利用者、入所者の安心に繋がるよう精進していきたい。

特別養護老人ホームおもいやり 令和4年度 各部署事業報告

介護部（佐藤 早 / 藤田 勤）

<特養2F>

コロナ禍での行事活動は色々な制限の中回数は少なかったが、利用者様の楽しんでいる様子が見られた。多職種との連携により早期発見・早期対応に努めることができたが、閉鎖された環境の中1つ1つのケアが流れ作業化してしまっており専門性を持った「なぜ・どうして」が持てない状況が見受けられた。また、1人業務が多い中で個々の意識の低さから1人の時間に自らを律することができずルールが守られていないことがある。

経験を重ねる毎に独自のやり方に流れてしまっているのが現状。「基本に忠実に」という目標からは外れており、介護の共有はできていても統一することに難しさを感じる。

<特養3F>（藤田 勤）

今年度は昨年度に比べて尿路感染症や誤嚥性肺炎による入院は減少した。昨年度の課題から、陰部洗浄の強化や個別排泄時間の調整など、より利用者に応じた排泄時間で取り組むことができた。

喀痰吸引については、特養職員の半数が資格取得した事で、医療的ケアが必要な利用者様の受け入れや、

日中夜間問わず介護職員が喀痰吸引を実施できる環境を作れた。

口腔ケアについては、歯磨きうがい細目にできていない事や歯磨きの方法が職員個々で違っていたり職員間で共有できず曖昧になる場面が見られた。誤嚥性肺炎の予防として、口腔ケアは大切な為、

ケアの必要性や方法など、多職種からの助言を受けながら浸透するよう取り組む必要があると感じた。

行事については、おやつ会誕生日会など適宜、個別で実施し利用者様の節目をお祝いすることができた。

看護部（犬飼 知子）

今年度は前年度と比べ入院者は少なくなったが、年度末に胃瘻の方が立て続けに入院となった。胃瘻の方は痰が多い方ばかりで、発熱や呼吸状態などの観察を行い医師に報告し、早期に入院することで退院も早かったと思われる。また、誤嚥性肺炎予防として、口腔ケアが不十分である為、ケアの必要性やケアの方法などの指導が必要だと感じた。

看取りケアの症例が増えてきており、ご本人・ご家族が安心できるように、日々の業務や面会時に関わりをしていきたいと思う。

感染予防として、吐物処理の方法を忘れていた職員がいたので、再度研修を行いたいと思う。

相談部（片田）

- ① 今年度は、特養において昨年と比較すると1年間の平均稼働率は安定していたが、目標稼働率にはわずかに届かなかった。入院者、死亡退所は例年並みであったが、看取りの件数が3件と増加したことや空床がでた際にスムーズに入所できるよう、施設全体で取り組んだことが一因であると考え。ショートステイにおいても昨年度よりは、平均稼働は上昇したが、例年同様長期宿泊の方が特養に入所すると稼働が大きく下がる為、今後も居宅介護支援事業所からの問い合わせに柔軟に対応し、空床の軽減に努めたい。
- ② 令和3年度に待機者の総数が大きく減少してしまったので、今年度は待機者を増やすことを目標に取り組みを行った。その結果、病院やご家族からの紹介も増え、待機者数を増やすことができた。今後も入院と退所が重なる時期があることを見越して地道な取り組みを継続していきたい。

栄養部（三宅）

事務部（高取美樹・服部あつ代）

総合的に責任と緊張感を持って取り組めたように思います。コスト削減に関しましては、職員一人一人が常に意識するよう日々啓蒙して参りました。世の中の現状を鑑みると、光熱費・物価の高騰など、思わぬ出費もありましたが、ペーパーレス化・石油ファンヒーターの導入など削減出来ることに努力して参りました。来年度も緊張感を持ちながら、施設長の指示のもと、日々起こるイレギュラーなことにも拙速に、目配り気配り心配りの心で職務を全うしてまいります。

小規模（上野）

- ① 昨年度と大きく変わらない稼働率となった。新規利用者は受け入れたものの、独居の高齢者や介護度の高いご利用者が多く、認知症状や病状が安定しないことにより入院加療が必要なケースが多く、継続的な利用が出来なかった。また、自宅での転倒骨折が増え長期的な入院が増えた。しかし、継続して利用して下さっているご利用者、家族からは喜びの声を頂き職員の励みになっている。
- ② 春秋のテラスでのバーベキュー行事や桜やひまわり、コスモスの花見ドライブなど、コロナ禍により制限はあったが、季節を感じて頂けるような取り組みができた。
- ③ 日々ご利用者とコミュニケーションの時間を設け、よく話しよく笑いアットホームな雰囲気が出来ていると思う。ご家族とも積極的なコミュニケーションを行い、話しやすい関係づくりが出来たと思う。
- ④ 大きな事故なく、一人一人に合ったケアが行えたと思う。しかし、認知症の方へのケアについては、寄り添う、工夫するまでに至らず、他職員に任せる、ゆだねるといった状況が

あった。見せる、伝える指導については限界があり、課題だと考える。

- ⑤ 地域の婦人会が再開したため、可能な範囲で参加し交流を図っている。地域の方から、「おもしろいカフェ」を望む声が聞かれており、今年度こそは開催したい。

介護付き有料老人ホーム平井げんき 令4年度 各部署事業報告

介護部（澤）

- ① 今年度は、クラスターにより施設内のアクティビティーも中止になり、他利用者様との関わりも最小限に抑えた為、利用者様の日常的なアクティビティーも思うように取り組めなかった。
- ② 今年度は、コロナ感染者が多く、ADL が低下し、転倒・骨折事故が相次いで起こったが、他職種と連携を図り、迅速に対応する事ができた。又、皮下出血が多い利用者様に対して原因を突き止め、ミーティングで対策を周知することにより、再発防止に取り組むことができた。

看護部（藤本）

入退所の多い年度となったが、他部署との情報共有を心がけ、入所者の状態に対し先手の対応を行った。コロナのクラスターが生じた際は、自部署からも陽性者が出てしまったので、他部署、他事業所からの応援が必要となり絶対数の少ない部署特有の脆さが出てしまった。

幸い、稼働の低下には繋がらず、亡くなる方もおられなかった。

相談部（松重）

1月には入院者が増え、稼働率が低迷したが、年度初旬に稼働率安定していたこともあり、年間では目標稼働率を達成することができた。新規入所と退院が重なり他部署に負担をかけてしまったため、入院者の状況を把握し入所の見通しを持てるようにしたい。

今年度、家族からの申し込みや特養おもしろいやりからの紹介が大半で、周辺病院からの問い合わせ件数は少なかった。今後はこちらからも周辺病院にアプローチし、繋がりを作っていくたい。

リハビリテーション部（兼田）

定期的に入所者の関節可動域や筋力の測定・評価を行い、入所者の身体機能の把握ができた。また、こまめに多職種と情報共有を行うことで、生活に即した動作練習や福祉用具の選定ができたと思う。転倒・転落事故予防については、カンファレンスやミーティングを用いて対策はしていたが、入所者の介護度の上昇や認知症の進行、クラスター発生による廃用症候群の進行などが激しく追いつかない部分があった。入所者の満足度において、屋外歩行やボール遊び、音楽などを行い一時的には喜んでいただけたが、規模や頻度については課題が残る。

令和 4 年度
牟佐げんき事業報告書
特別養護老人ホーム
短期入所生活介護
居宅介護支援
小規模多機能型居宅介護

令和 4 年度牟佐げんき事業報告

1、施設継続のための健全経営：

各感染症予防、食中毒予防等の対策を行い運営してきたが、1月にクラスターを起こしてしまい、入居受入、ショートステイ利用中止の対応をすることとなった。11月からの連続した退所も重なり、その影響で特養とショートステイの稼働率低下を招いた。その結果、全体として収入減となり予算を大幅に下回る結果となった。

2、介護サービスの質の担保：

入社前の体調確認や入社後の手洗い、施設内の消毒等を常態化して行っている。内部研修等は積極的に継続して行っている。また、会議、申し送りやミーティングで介護方針の統一、日常業務中の職員相互のチェック体制等もとりながら行えた。

3、働きやすい職場環境づくりと人材育成：

年2回上司と面談を行うことで意見を集約し返答する機会を持つことが継続してできている。外部研修に参加することがほとんどできておらず、研修を受けることが十分にできなかったが、オンラインでの参加や内部での研修により職員のスキルアップを図ることができた。

4、地域密着型の施設づくり：

町内の清掃活動など限られた活動にしか参加できておらず、昨年度同様停滞気味の状況であり、十分な行動はできなかった。ただ、年度末に運営推進会議を対面にて開催できたのは明るい材料であった。

5、災害時 BCP 策定：

策定した BCP をもとにシュミレーション訓練を実際に利用者にも参加して

もらい、本番を想定して訓練実施をすることができた。感染症のBCP策定についてはまだ作成中であり、令和5年度中に策定完了しなければならない状況である。

令和5年3月31日

牟佐げんき 施設長 重實 剛

令和4年度牟佐げんき部署別目標報告書 【げんきユニット】

NO.	年間目標	達成状況	反省及び評価
1	職員の情報共有を密にし、他職種との情報交換・連携をスムーズに行う。変わりがあれば早期に報告し対応していく。	80%	問題や疑問があれば早期に解決するように他職種とも連携しながら出来たと思う。
2	利用者様とのコミュニケーションにより、普段と違う様子や心の変化に気付けるようにしていく。また、居室で過ごされている利用者様にも積極的に関わり状態観察を行う。	70%	会話ができる利用者様やリビングに出て来られる利用者様の様子は話題に出る事が多くあったが、居室で過ごされている利用者様の様子は話題になることが少なく、積極的に関わってはいなかったように思う。
3	職員同士の信頼関係を築き、些細なことでも気軽に相談できる環境を作る。	80%	日常会話の中でも利用者様の話が出たり、相談が有ったり等、環境作りは出来たと思う。
4	コロナ禍により外出が出来ない窮屈な日常生活の中で、月に1回は楽しめる行事を行っていきたい。また、食事企画だけでなく全員が参加できるような行事も考えていきたい。	70%	月に1回行事は出来たが食事企画がほとんどで、全員参加できるような企画が出来なかった。

令和4年度牟佐げんき部署別目標報告書 【事務部】

NO.	年間目標	達成状況及び反省
1	<p>(事務部全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの担当する業務を責任もって行うとともに互いにフォローができるよう事務部内での申し送りや連絡・報告を密に行う。 ・ 電話受付や来客対応では施設の受付窓口として気持ちの良い挨拶をし、誠実・丁寧に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務部日誌の活用、口頭などでの申し送り等概ねフォローは出来ていた。今後も維持したい。 ・ 電話対応や来客対応に加えオンライン面会の対応が多くなったが、事務所一体となって丁寧な対応に努めることができていた。 ・ 今後も対応を継続するとともに、電話をかけてくる人や来所する人に施設として良い印象を持っていただけるよう声や表情にも気を配る。
2	<p>(相談)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稼働率の安定と多職種との連携に勤める。 ・ 地域密着型施設としての交流機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度特養においては死亡退所等が10月頃から重なり、稼働が振るわず厳しい一年となった。 ・ 多職種等の連携はスムーズにつなげる事が出来たが、待機者の総数が激減し退所の人数に追いつく事ができず稼働率の低迷してしまった。 ・ 近隣の病院、居宅介護支援事業所への営業活動を実施していき、待機者の総数を増やし退所者が重なっても対応できる体制をつくる必要がある。 ・ SNS や牟佐げんき通信等でご家族や地域の方々への情報発信を行っていたが、地域・家族との交流機会を持つ事がほとんど出きなかった。 ・ 感染状況をみながら家族・地域との交流を行っていきたい。
3	<p>(栄養)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユニット調理は料理の様子を見て頂くだけでなく、臭いや音でも楽しめ食思 up につながる様工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナにより利用者様も一緒に調理して頂く事がまだ出来ませんでした。目の前で作り音や臭いを感じて頂く事はできた。コロナも落ち着いてきているので、利用者様も一緒に調理に参加できるよう工夫していきたい。
4	<p>(事務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談員・ケアマネと連携をとり、請求での漏れがないよう確実に行う。 ・ 窓口や電話対応では丁寧に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二重チェックを行うことで概ねできていた。引き続き漏れ等を未然に防ぎ確実にやっていくよう努める。 ・ コロナで窓口での対応が続いたが丁寧にできていたと思う。

	<p>確実にを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 労務関連については、本部と連絡をとりながら迅速かつ正確に行う。 	<p>丁寧な対応を行うことで来所される方々に心地よく利用していただけるよう今後も継続して努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 概ね不備なく進めることができたが、電子化による手続きが上手に行えるよう努めていきたい。
--	--	--

令和4年度牟佐げんきき部署別目標報告書 【居宅介護支援事業所】

NO.	年間目標	達成状況及び反省
1	<p>居宅の担当件数(予防を含めて)は74件前後を下回らず維持していけるよう努めていきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 件数は月に利用ない方を除き、実際に利用した方は68.5～74件で推移、ただ、居宅CM変更に伴い他の事業所へ居宅変更等もあったため3月、4月の件数は47件前後となっている。 ・ 居宅全体の件数も減った事もあり、新規依頼の要望あれば積極的に受けていけるよう努め、徐々に全体としての件数を増やしていく必要がある
2	<p>サービス事業者、地域包括支援センター、主治医、その他、行政や各種機関、地域関係者等の連携が積極的に進めていけるよう努めていきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種関係機関とは必要な事があれば都度、連絡、相談等を行い、情報共有等も行っていた。 ・ ケアマネを行っていく上で多職種連携は必修であるため今後も積極的に行っていく必要がある。また、制度上の動向にも注意を促しながら漏れがないよう業務を行っていく
3	<p>制度上の情報収集や必要な対応等も的確に行い、介護支援専門員としての資質向上を目指しご利用者様が不安なく安心して相談出来るよう努めていきます</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修はコロナの関係でオンライン上の研修に参加はしたが、参加自体はあまり積極的には出来ていない ・ 制度上の同行にも注意を促しながら必要な研修には積極的に参加し、困った事があれば他者にも相談し確認等も行い資質向上に繋げていく

令和4年度
養護老人ホーム 松風園群
事業報告

養護老人ホーム 松風園

1. 安定経営の実現と重度化の対応

養護老人ホームの年間稼働率 96.17%。今年度の前半は満床になることはなく、後半も96%でしたが、12月～3月には100%を維持でき上記の年間稼働率となりました。前年比100.9% 100万円ほど増収となりました。

入所者は日々年齢を重ね、現在当園でも5人に1人が10年以上入所されていて、自立で入所された方も、日常的に介護を必要となってきましたが、介護保険の更新で介護度が下がり、必要とされるケアに入れない事もあります。そのため、自立支援を基本として入所者と職員が何をどこまで支援するか、入所者お一人お一人に対して柔軟に対応しております。

2. サービスの質の維持・向上

施設外の研修は、新型コロナの影響もあり オンラインで開催されない研修については参加を見送りました。

施設内では感染対策、事故対策の研修を定期的に行い、職員の知識向上に努めました。

3. 自覚を持った行動

夏には施設内において新型コロナクラスターとなりましたが、日頃から感染リスクを考慮しており、感染者は利用者・職員併せて6名と最小限に抑えることができました。

日々日常業務について検討を行い業務改善に努めました。

4. 地域貢献

独り暮らし高齢者の見守り事業として、月に1～2回、自宅訪問をしています。地域の方からも直接依頼をいただいております。地域に根差した活動を今後も続けていく予定です。

デイサービスセンター 松風園

1. 稼働率90%を目指す

8月より定員を15名から18名に上げる。
年間平均稼働率87.25%と目標値は達成していないが、前年対比101.9%
請求額は約330万円増収となりました。
なお、外部からは1名ご利用いただいております。

2. サービスの質の維持・向上

季節を感じられる行事を中心に行いました。利用者の反響も良く、楽しんでいただくことができました。

ヘルパーステーション 松風園

1. 経営の安定を図る

前年対比86.6% 請求額は90万円減収となりました。
養護内だけではなく、外部の方も2名対応しています。

2. サービスの質の維持・向上

施設内研修を行ない、事故の無い安全・安心できるサービスを提供するように心がけました。外部にも訪問に行く為、新型コロナウイルス感染対策を施し、職員が媒介者にならないように努めました。

令和4年度特別養護老人ホーム光生げんき群事業報告

特別養護老人ホーム光生げんき
施設長 原田 剛司

1, 運営について

令和4年度は7月に特養短期入所でコロナクラスター、12月に特養でコロナクラスターが発生し、収入については、特養は、前年比97%、特養短期入所は、前年比87%となりコロナクラスターの影響を大きく受けました。また、小規模多機能居宅介護は、登録者数が増えず、前年比76%と大きく下げ、全体の収入については、前年比87%となりました。

2, サービスの質の向上について

令和4年度から職員のスキルアップの為、オンライン研修を取り入れています。また、タブレットで記録ができるCare Palette(ケアパレット)も導入しています。職員の定着化と転職者が「この施設に就職したことは失敗ではなかった」と思える職場環境にします。

3, 地域密着型施設として

令和4年度もコロナ禍で地域との関わり合いが持てず、地域の皆様に有益な情報発信が出来ませんでした。令和5年5月8日から新型コロナウイルスの感染法上の分類が季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられ、対策も大きく変わりそうですが、施設としては従来

通りの感染対策を続けながら、令和5年度は、運営推進会議の開催や地域の催し物に積極的に参加し、地域の皆様に有益な情報発信出来るようにします。

令和4年度サービス付き高齢者向け住宅桑田げんき事業報告

サービス付き高齢者向け住宅桑田げんき
施設長 原田 剛司

令和4年度は、特養等の施設に入居された方が5名、逝去された方が8名で稼働率は77.8%、収入は昨年度実績を若干下回りました。

光生病院の在宅支援部の体制変更に伴い、連携が上手く取れず、入居希望者のニーズを満たせず、入居者様を逃したことが多々ありました。

令和5年度は、光生病院の在宅支援部だけではなく、外部の訪問看護・訪問介護を積極的に利用します。また、9階・10階の要介護度が高い入居者様は、ことぶき会の特養入居を薦めます。病院併設のメリットを活かし、人工透析や胃婁の方に入居していただき稼働率を上げます。

職員については、高齢化が進んでいるので、外国人留学生のアルバイトも含めて積極的に採用します。

令和4年度 古新田げんき事業報告

令和4年度は、コロナウイルス感染症だけではなく物価高騰が加わり古新田げんきの経営に苦しい状況が生じました。物価高騰に伴い、光熱費、食材や消耗品などの調達費用が増加し、経費の抑制が求められる状況下にありました。しかしながら、全職員一丸となり、予算の見直しやコスト削減に努め、収入の減少があったものの施設の運営を継続することができました。また、職員一同、大変な状況下でも入居者の方、利用者の方に寄り添い、心を込めたケアの提供をしていただきました。このような苦しい状況を共に経験したことで古新田げんきの職員はより一層仲間と協力し入居者の方、利用者の方に満足いただけるようなケアを提供するためにさらに努力を続けていく決意を新たにしました。

令和5年4月30日

古新田げんき 施設長 清水 敦子

①楽しく・健康に

コロナ禍でも入居者様の皆さんに安心して楽しい日々を過ごして頂ける様、感染対策を行いながら可能な範囲で施設全体行事やユニット行事を行い、入居者様に活気のある日々の提供が出来ました。また、職員一人一人が自己の健康管理・感染対策を行い、入居者様に体調不良者が出た際の早期対応・感染対策を実施する事が出来ました。

②協力し合える職場に

ユニットの垣根を越えて情報共有・コミュニケーションをとる事を意識し、ユニット内での協力以外にフォローが必要な場合は声を上げやすいような雰囲気作りに努めてきました。ユニット同士、2・3階とフロアを越えて声を掛け合い、必要時には協力し合う事が出来ました。

③地域に根差した施設になれるよう努める

コロナ禍で地域の方々と直接関わる事は難しい状況が続いていますが、SNSを通じてご家族や地域の方々への情報発信を継続して行っています。今後も、状況をみながら地域との交流を行っていきます。

古新田げんき 特養・短期介護部リーダー

三谷 仁美・江本 弥生

令和4年度 小規模多機能型居宅介護古新田げんき 事業報告

目標1 登録者22名以上の維持を目指す。

月当たりの登録者数は、21件～24件の間を推移しており、年平均登録者数は23.1件であった。今後も、引き続き包括支援センターや病院等と連携を密にして、新規利用者の受入れに努めていく。

目標2 毎月ミーティングを開催し、業務内容の確認・見直しを行う。

毎月ミーティングを開催し、個別のケア内容を含む業務内容の見直しや伝達事項の確認を行っている。月内にミーティングを複数回実施する事で、全職員がミーティングに出席している。サービスの質の向上や業務の円滑化に効果が出ている。

目標3 ヒヤリハットや事故報告書で検討した改善策・再発防止策を確実に実施し、事故件数を減らす。

事故件数は、令和3年度92件→令和4年度65件と減少し、目標は達成できたが、ヒヤリハット報告書自体も令和3年度104件→令和4年度66件と減少している。ヒヤリハット報告を増やす事が、事故件数の更なる減少に繋がる為、報告数を増やす必要がある。

目標4 公用車の事故ゼロを目指す。

昨年11月に職員が送迎帰りに接触される車両事故が発生した。幸い利用者は乗車して居なかったが、送迎や訪問で運転機会が多い為、こまめな周囲状況の確認を意識して安全運転に努めていく必要がある。

目標5 感染対策実施のもと地域住民と事業所の交流機会を持つ。

コロナ禍により、地域行事自体が中止されたり、事業所としても地域住民を招いた行事は開催出来ていない。目標は達成できず。

2023年4月30日

小規模多機能型居宅介護 古新田げんき
管理者 角 良太

令和4年度 事業報告書

社会福祉法人ことぶき会 三鷹げんき群

重点目標

令和4年度の重点目標の実績は、以下の通りである。

(1) モチベーションが上がる職場環境づくりと職員一人ひとりのスキルアップ

昨年度に引き続き、委員会活動において各委員会議長にユニットリーダーを選任し、各委員会が核となり職員が全員参加することで介護の質の向上に取り組むことができた。内部研修においても、委員会が主催し実施した。また、リスクやハラスメントに関しても外部より講師を招き研修を行った。モチベーションが上がる職場づくりとして、職員の成果をなるべく正當に評価できるよう組織体制の強化を図った。

(2) 個別ケア、ユニットケアの再周知、認知症ケアの充実

個別ケア、ユニットケアの実践として、導入した24シートの浸透に努めた。ユニットケアの知識を深め統一した見解がもてるように『ユニットケアとは何か』の再徹底から導入のマニュアルの共有など研修を繰り返した。

(3) 健全な経営の強化

本年度、コロナ禍でありながら特養部門において95%、ショート部門において90%という大変堅調な運営を行った。

(4) 地域への貢献

「大沢住民協議会」では、地域住民のための『大沢音楽祭』を開催し施設より応援を行えた。地域のコミュニティへの参加を継続したことで、徐々に地域との繋がりを作ることが出来ている。

【介護部】 『事業方針（重点目標）に対する取り組み』

1) 職員一人ひとりのスキルアップ

各委員会活動・内部研修を通じて介護技術の向上とより充実したサービスの提供を目指す。

内部研修実施

4月		10月	感染症予防（インフル・ノロ・コロナ）
5月	身体拘束虐待防止	11月	身体拘束虐待防止
6月	リスクマネジメント	12月	介護業界で働く上での心構え（権利擁護を含む）
7月	感染症予防（インフル・ノロ・コロナ）	1月	個人情報について
8月	ケアプランについて	2月	ケアプランについて
9月	看取りケアについて	3月	看取りケアについて

2) 個別ケア、ユニットケアの充実。

重大事故が起きた際や、入居者様間でのトラブル、職員との意見の食い違いなどの際には、他部署の主任を交えたカンファレンス等を行い、施設で生活がより充実し、入居者様の願いをかなえることが出来る取り組みを行った。

3) 健全な経営の強化

コロナ感染での入院などあったが、入居の体制を整え退去されてしまってから、スムーズな入居を目指し高水準な稼働を実施できた。

4) 外国人スタッフの継続的な雇用を目指す

令和4年度では5名の外国人スタッフを雇用し現在10名の外国人スタッフに介護スタッフとして業務を行っていただいています。職員の日本語能力と介護技術を確認し多くの職員が夜勤まで行える状況です。今後、介護福祉士の資格の所得のサポートやユニットリーダーを目指せる人員を育てたいと思います。

5) 地域に根ざした貢献活動とご家族様に向けた取り組み

地域の課題の解決に積極的に協力する施設・設備の開放。

コロナ化の影響により、地域の皆様に設備を開放することはできず。インスタグラムを通し施設行事などを地域に発信した。

また、毎月入居者様のご家族様及び後見人へ施設内での生活が少しでも感じていただけるように写真と定期的に手紙を送らせていただき、ご家族様からは感謝の言葉を頂くことが出来た。

6) ご家族様との面会について

コロナ禍の状況ではあったが、時間や状況などを制限させていただく中面会の実施を行うことが出来た。可能な限りユニットのスタッフが付き添い、日々の状況など説明することで、ご家族様への安心感につなげることが出来た。

『年間行事内容』

4月	桜見学ツアー	10月	ハロウィンイベント
5月	端午の節句	11月	秋祭り
6月	アジサイ祭り（アジサイゼリー作成）	12月	クリスマスイベント
7月	七夕	1月	お正月（神社参拝）
8月	夏祭り	2月	
9月	敬老会	3月	節分イベント

三鷹げんき介護部主任 尼子 准

【相談部】

【特別養護老人ホーム】 定員 132 名

施設利用率： 95.27% 目標利用率：94%
男女比率： 2：8
平均年齢： 88.3 歳 最高 103 歳 / 最低 68 歳
平均要介護： 3.75
平均在所期間：1.9 年 最長 3.1 年
年間入所：34 人
年間退所：30 人
主な入所理由：独居困難 在宅介護困難のため
主な対処理由：死亡 長期療養入院

① 利用者支援サービスの充実

利用者の自己決定や残存能力に基づいた介助を実践し、個別ニーズに応じた自立支援を実践しました。相談窓口を設け、感染対策をとりながら一部の施設案内、相談援助を行い、計画書（ケアプラン）については、ご家族の面会時、来所持に意向や希望を伺い、各担当者 と連携し適切なプランの作成に努めました。

今年度は入院者が多く、病院との情報を伝達し、退院時には安全な生活支援に繋がるよう家族参加を伴うサービス担当者会議を開催し、退院後の施設生活の体制を作り、看取りケアでは適切な連携を実践し、尊厳を持った看取り介護ケアに努めることができました。

コロナ感染予防を徹底し企画運営、行事を開催しました。

② 地域との取り組み

地域でのイベントに参加し、交流の機会を多く持つことができました。

コロナ感染上ボランティアの受け入れは難しい中、感染予防を徹底し体験学習の受け入れを可能な限り行うことができました。

保険者や居宅介護支援事業所からの困難ケース、緊急性の高い入居者の要請には迅速に検討し、各担当者、介護部と連携し入居の受け入れ準備の対応に努めました。

地域包括センターなど地域との連絡会に参加し連携を図りました。

ホームページの更新は十分ではなかったが、インスタグラムの更新を小まめに行い、地域への情報発信を行いました。

③ 人材育成と職場環境

職員がやりがいと希望を持ち続けられるように、各種研修、OJT を通して人材育成を行いました。

新入職や外国人の職員については不安な状況からコミュニケーションを多くとり、それぞれの個性や経験にあった育成の体制を整え順調に業務に就くことができました。

④ 苦情対応・緊急時の対応

調査し再発防止に努めました。

⑤ 財務に関する取り組み

入院、退居も多い中、新入居や空床利用を迅速に行い、目標稼働率を達成できました。

又利用者の状況に合わせた加算の取得、職員の配置状況による加算の取得に至らない月が発生し課題として残りました。

※特養 施設年間利用状況

利用者状況推移 要介護状態区分別利用者数

	要介護度別内訳					合計
	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R2 (2020 年度)	2	5	32	36	25	100
R3 (2021 年度)	2	7	44	46	26	125
R4 (2022 年度)	2	8	41	42	33	126

【短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護】

定員 12 名

施設利用率： 90.6%

目標利用率：90%

男女比率： 2：8

平均年齢： 86.8 歳

最高 105 歳 / 最低 65 歳

平均要介護： 3.18

① マネジメント強化

緊急の要請は積極的な対応に努め、事業所との連携を強化し、定期利用の維持に繋げることができました。

② 基本的な生活支援

「居宅サービス計画書」に基づいて利用者本人・家族の意向や希望に応じた利用者の人権を尊重し、自立した生活を営めるよう支援しました。

③ 地域への取り組み

介護サービス事業所、医療機関、地域関係者と連携を図り、情報の共有化を推進することで利用者が安心して生活できる環境整備に繋げることができました。

地域ケア会議に出席、利用状況報告や日常生活の助言など在宅生活の継続を支援しました。

④ 人材育成と職場環境の整備

子育て世代や非常勤の雇用に努め短時間で働ける環境整備に取り組みました。

新型コロナウイルスの影響により入所時の抗原検査、陰性確認後の入所により、安全に受け入れ体制を整えることができました。

職員が安心して働けるよう感染予防を行い、クラスターの発生や人数制限無く運営を続けることができました。

⑤ 財務に関する取り組み

職員の配置状況のよる加算の取得に至らない月が発生し課題として残りました。

急なキャンセルでの空室対応、新規利用者、多くのリピーター増により年間を通して目標稼働率を達成することができました。

利用者状況推移 要介護状態区分別利用者数

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R2 (2020 年)	1	1	11	13	11	7	4	48
R3 (2021 年)	0	0	26	35	34	18	8	121
R4 (2022 年)	1	1	16	24	35	21	13	111

【看護部】

1) よりユニットへ寄り添った看護体制づくり

三鷹げんきがユニットケア提供を目標とする中、看護部がどのような体制をとっていくことが望ましいのか、都度検討・変更してきた。

今年度、1階医務室の環境が防災上適切でない（医材物品や内服薬などを一室で管理しているため保管物が多い）と安全衛生委員会より指摘あったことが機会となり、各階薬品庫へ各階の必要物品や内服薬を移動。

同時に看護師の業務を各階で行うことができるよう、業務の調整や変更を行った。

現在も試行錯誤をしている状況ではあるが、各フロア内で業務にあたることが定着し、これまで以上にユニット職員やご入居者様に寄り添った看護を提供できるようになったと感じている。

一方で、往診準備や情報収集、書類作成など集中して取り組む必要のある業務が押し込まれている現状もあるため、業務調整や環境整備を行っていく。

また、今後は看護師それぞれがユニットの一員であるという意識をさらに高め、他部署連携の中、専門的視点を持った関わりで入居者様が安心して過ごしていただけるよう努めていく。

2) ご入居者さまの健康診断

昨年度同様、あきる台病院の協力を得て3月18日に全員対象に実施することができた。介護部だけでなく全部署と連携し、ユニットには主に当日のユニット介護士のシフト調整、入浴やレク等の変更、検査誘導の協力について予め通達を行い施設全体で協力してスムーズに行うことができた。

数か月前よりあきる台病院と打ち合わせを行い、健診前日までに全ご入居者様の尿検査を実施。当日は健診スタッフの誘導、採血の際の協力、抗凝固剤や抗血栓薬服用中の方のリストアップと伝達等の準備を行った。

また健診結果到着後（4月中旬の予定）は往診医と状態の情報共有を行い、外部（緊急）受診の手配やご家族様への連絡と対応ご希望の確認、血液・尿の再検査、定期採血スケジュールの見直し（往診医へ確認）を行う。

健診結果を送付（コピー）するだけでなく、医師の見解や方針をコメントとして伝達することで、ご家族様と情報共有していく。

3) 予防接種の実施

【インフルエンザワクチン接種】

（ご入居者様） 10月27日一斉接種。往診のあゆみクリニックがワクチンや必要物品を準備。当日は高橋医師が問診を行い、施設看護師が接種した。

（施設職員） 接種希望について調査を行い、ワクチンや必要物品数について施設長を通じて光生病院へ準備を依頼。

11月安全衛生委員会開催日に産業医である高山医師が問診、施設看護師が接種した。

【新型コロナワクチン接種】

今年度の3・4回目は職員・入居者ともに施設内で希望調査し4～6日に分けて実施。

（三鷹あゆみクリニック往診日に実施）

5回目以降、入居者は11/26一斉接種、職員は各住所地での接種とした。

施設内感染予防対策

【感染委員会運営】

今年度より感染委員会の議長を看護部（主任、他 1 名）が担当し、介護士の感染予防に対する意識向上を目標に感染委員会において育成を行った。

施設での感染対策について職員各自が自発的に取り組むことができるよう「感染対策はなぜ必要なのか」「現在行っている対策の意味は」といった基本的な知識習得のため委員会内研修を実施。

毎月の委員会では研修や指導以外に、施設内での感染状況の共有やユニットにおける感染対策（消毒作業・換気）チェック表の提出、感染ワゴン（発熱時使用）の管理を各委員が行うようにし、ユニットにおける感染対策責任者であるという意識向上を目指した。

しかし、年度末にはユニット内感染対策についてユニット差が露呈するようになり、それは各感染委員の意識の差に比例していると思われる状況であった。

感染委員会での決定事項や情報をユニットに伝達し実行できているか、来年度は感染対策が不十分と思われるユニットについては委員のみではなくユニットリーダーにも確認を行い、不十分と気づいた時点で看護師より指導を行うなどし、施設全体の意識向上を目指す。

【コロナ陽性者発生時の指導】

職員や入居者のコロナ陽性発覚時、検査予定や行動隔離等の対応書を作成し、ユニットや他部署へ指導・施設内共有した。今年度は特養 2 ユニットにて入居者への感染状況となったがユニット内少人数に留まらせることが出来た。

【新入職研修】

新入職者に対しては、施設内感染予防策について研修。ガウンテクニックなどの実技はユニットにて OJT としていたが、OJT 担当のスキルや知識の差が原因で、実際に正しい手技が行えていない職員も少なくなかった。今後は入職当日から正しい手技で感染対策を行うことが出来るよう、研修時間内で実技も行う予定とする。

【職員・入居者への検査】

新型コロナ感染状況下が続き、施設内（ご入居者様・職員とその家族）での感染者や濃厚接触者など感染状況の把握と情報共有している。スクリーニングとしての週 1 回職員 PCR 検査（東京都）、その他発熱等感染が疑われる状況の際に抗原検査を適宜実施し東京都へ報告している。（延長）

4) 看護部内勉強会

看護部内で「施設における感染予防対策」「高齢者の口腔ケアの重要性」についてネット配信研修を利用し勉強会を行った。看護師に経験やスキルに差がある状況ではあるが、共通の内容を学ぶことで基礎的な理解の差を縮小できると思われるため、来年度も定期的に取り入れていく。

5) 往診：三鷹あゆみクリニック・中川薬局との連携

定期往診やワクチン接種の流れは定着し、入退院時や新入居時の対応についても確立しつつあるが処方漏れやミスもある。今後もスムーズで安全な医療提供できるよう工夫し努めていく。

【栄養部】

I. 栄養管理業務について

- ① 管理栄養士2名体制の確立。施設の1・2Fと3・4Fに担当を分けて、栄養管理の実施や担当者会議への参加を行うことで、入居者への細やかな栄養ケアを実現。日々のミールラウンドにより他職種からの入居者様の食事相談を受け、対応することが出来た。
- ② 入居者様への個別対応の実施。多職種と連携し、入居者様の体重変化・食事摂取量・症状・嗜好・ライフスタイルなどに合わせた食事提供内容の検討・実施を行った。少量高栄養食・栄養補助食品を活用した栄養管理の実施。看取りケアの入居者様へも、負担の少ない食事内容の選択肢の一つとして栄養補助食品の提供を行った。
- ③ 経口維持加算Ⅰ・Ⅱの算定の継続と算定者の追加。歯科医療機関と連携し、月1回多職種ミールラウンド・多職種会議を行い、誤嚥性肺炎予防に努め、最期まで口から食べることを支援した。

<令和4年度 経口維持加算 算定者数>											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4名	5名	6名	6名	5名	8名	10名	10名	11名	11名	11名	11名

II. 給食管理業務

- ① 委託業者が作成する献立を確認し、美味しく提供できるように食材や調味料の調整を行った。また、月2回以上の行事食を実施し、季節感のある献立内容となるよう心掛けた。イベント食（都道府県巡り・予防対策メニューなど）のポスターやカードをユニットフロアに配布し、入居者へ食事に関する情報提供を行った。
- ② 検食方法の改善。従来の方法を見直し、昼食の配膳前に管理栄養士が味見を出来る方法に変更を行った。また、同様の方法で夕食の検食も新たに開始し、安定した品質の食事提供に努めた。
- ③ 食事委員会と連携し、入居者・ユニット職員が美味しく・楽しく・安全に食事提供が出来る方法を協議した。

III. 令和4年度 年間行事・イベント食

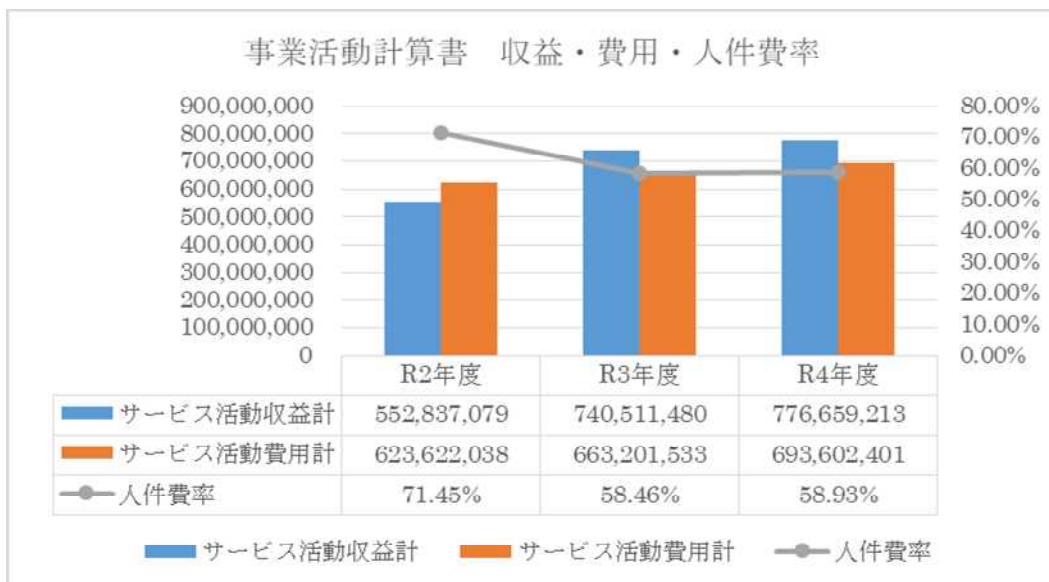
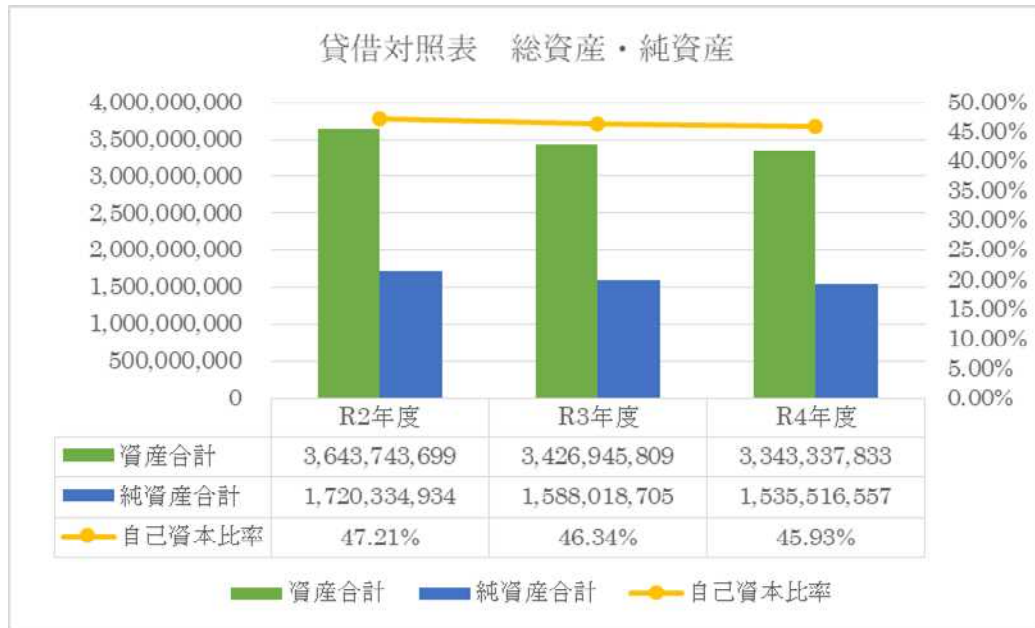


<1/1 提供 おせち料理>



<3/1 提供 握り寿司>

【事務部】



① 事務処理体制に係る迅速性・合理性・正確性を追求する。介護報酬請求に当たり、正確な事務処理体制の確立を図る。

→迅速な事務処理ができるよう職場環境を見直し無駄を省くよう心がけ、事務処理体制の確立を図ることができた。

② 事務室は、施設の窓口であり、接客マナーに特段の意を用いるように心掛ける。

→接客、電話応対等トラブルなく行うことができた。

③ 施設内の維持管理に万全を期す。

→施設の備品・物品等を定期的にチェックし、コロナ過で衛生用品など品薄な中、必要物品を準備できた。また修理が必要な物は迅速に対応することができた。

④ 外国人特定技能実習生の日本語能力のレベルアップを目指す。外国人が安全安心して仕事できるような職場づくりに取り組む。

→日本語が苦手な外国人に対して、定期的に日本語研修を行い、日本語の向上に努めることができた。

三鷹げんき事務部

令和四年度 みらい保育園 事業報告書

平成 26 年 10 月に開所して八年半、また岡山市地域型保育事業(0～2 歳児を対象とする事業所内保育所)の認可を受け、六年目の年でもあります。

今年度は定員数を 57 名から 40 名に変更し、運営を行いました。園児数も安定し、職員も確保でき受け入れに関しては予定通り順調に進めることができました。園児・職員共に無事一年を終えることができたことを心より感謝しております。

何よりも園児の健康を第一に、出来る限りの感染対策を行いながら保育を行ってまいりました。低年齢児は特に、定められている配置基準では到底環境整備まで手が届かない現状の中、職員一人ひとりが健康に留意し、協力し合って辛抱強く本当に良く頑張ってくれたと思います。保育内容においては、季節の行事活動の他、野菜類の生長観察や行事食を通しての食育活動を行いました。また、3年振りに、一週間かけて参観日を行ったり、人数制限をしながらお別れ発表会も行ったりすることができ、保護者の皆様に様子を見ていただくことで職員への活力にもなり、実行して良かったと思っております。今後も園児と職員にとって最善の環境作りに努め、安心安全の運営に努めてまいります。

令和5年3月31日
みらい保育園 園長 神原 由加里

＜年 間 行 事＞

4月	身体測定 避難訓練 お誕生日会	10月	身体測定 避難訓練 お誕生日会・消防車見学
5月	身体測定 避難訓練 お誕生日会	11月	身体測定・お誕生日会 春花・冬野菜の苗植え 遠足ごっこ
6月	身体測定・避難訓練 夏野菜・夏花の苗植え お誕生日	12月	身体測定・避難訓練 お誕生日会・参観日 クリスマス会
7月	水遊び・スイカ割り 身体測定・避難訓練 お誕生日会	1月	お正月あそび 身体測定・避難訓練 お誕生日会
8月	水遊び・夏祭り 身体測定・避難訓練 お誕生日会	2月	節分会 身体測定・避難訓練 お誕生日会
9月	身体測定 避難訓練 お誕生日会	3月	ひなまつり会 身体測定・避難訓練 お別れ発表会・お誕生日会

栄養部事業報告

今年度も園児の発育・発達の過程にに応じて安全な食事の提供に努めました。また全職種の職員が連携し、園児にとってより必要な食事づくりに取り組みました。食事の時間は、園児と関わりを持ちながら食べ進み具合などの様子を見て、喫食状況を踏まえて食事の評価を行いました。毎月1回行う給食委員会では、食事形態や味付けなどの食事内容について振り返り、見直しを繰り返し行いながら改善に努めました。また、毎月1回行事食を提供し、季節を感じられる行事食を作るもののほか、コロナ禍でも少しでも楽しめる機会を増やせるよう、意見を出し合い、彩りや見た目に工夫を凝らしたものを考えて提供しました。(表1参照)

令和5年3月31日

みらい保育園 食育リーダー 西山 愛莉

表1 行事食の取り組み

<p>●4月 *春プレート みつばちライス 鶏肉の唐揚げ ブロッコリーサラダ 春キャベツのスープ いちご</p> <p>*四つ葉クッキー</p>	<p>●5月 *こどもの日プレート アンパンマンライス ミートローフ ほうれん草のツナサラダ コーンポタージュスープ オレンジ</p> <p>*こいのぼりクッキー</p>	<p>●6月 *雨の日プレート かえるさんライス 唐揚げ キャベツとコーンの和え物 ミニトマト・野菜スープ オレンジ</p> <p>*あじさいゼリー</p>	<p>●7月 *七夕プレート キラキラピラフ ハンバーグ ブロッコリーサラダ えのきのスープ パイン缶</p> <p>*お星さまクッキー</p>
<p>●8月 *夏プレート カニさんライス 肉団子 キャベツとツナのサラダ かぼちゃのポタージュ ミニゼリー</p> <p>*わらびもち</p>	<p>●9月 *お月見プレート うさぎさんキーマカレー ポテトサラダ ブロッコリー ミニトマト ミルクスープ りんご</p> <p>*お月見団子</p>	<p>●10月 *ハロウィンプレート おばけさんライス ハンバーグ ブロッコリーの和え物 コーンスープ ミニゼリー</p> <p>*おばけクッキー</p>	<p>●11月 *秋の行楽弁当 おにぎり(わかめ・ゆかり) 唐揚げ キャベツの和え物 ポテト・ミニトマト ブロッコリー ミニゼリー</p> <p>*さつまいももち</p>
<p>●12月 *クリスマスプレート リース型ライス チキンカツ スパゲッティサラダ ポイルブロッコリー ポトフスープ いちご</p> <p>*スノーボールクッキー</p>	<p>●1月 *冬プレート 雪だるまライス 鶏肉のオランダ揚げ ほうれん草のソテー ミニトマト ミネストローネ風スープ ミニゼリー</p> <p>*アメリカンドッグ</p>	<p>●2月 *節分プレート 鬼さんライス ポークビーンズ 小松菜のお浸し ポタージュスープ オレンジ</p> <p>*金棒クッキー</p>	<p>●3月 *ひなまつりプレート ちらし寿司 唐揚げ キャベツの和え物 すまし汁 りんご</p> <p>*三色蒸しパン</p>

令和4年度事業報告書

社会福祉法人ことぶき会

三鷹げんき グローバル保育園

昨年度までの株式会社英語保育所サービスによる委託運営を令和4年度よりことぶき会直営としたことで、メリットとして挙げていた下記3点それぞれにおいて大きな成果をあげた一年となった。

(1) 運営状況の改善

意思決定プロセス・特養との連携・情報共有等が明確でスムーズとなり運営管理の把握が確実になった。必要な研修や、職員指導、人材育成も的確に行えるようになった。

(2) 質の高い保育への取り組み

ことぶき会として方針策定することで園として出来ることが増えて可能性が広がり、より質の高い保育を行うことができた。

(3) 収支改善

これまで開設より赤字が続いていたが、初めて単年度で黒字運営を行うことが出来た。